

授業科目(ナンバリング)	介護実習Ⅲ(介)(DB415)			担当教員	浦 秀美 石橋亜矢 久田貴幸		
展開方法	実習	単位数	4 単位	開講年次・時期	4年・集中	必修・選択	選択 (介護必修)
授業のねらい							アクティブ・ ラーニング の 類 型
<p>本実習では、地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とすることをねらいとした介護実習Ⅰ・介護実習Ⅱをさらに展開させる。ホスピタリティの精神に基づいて人々の自己実現を支援することがねらいである。また、介護実習の集大成として、本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とするため、介護過程を展開する。他科目で学習した知識や技術を総合して、個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にして、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価や、これを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開していく。本実習は、介護を必要とする幅広い利用者に対する基本的な介護を提供できる資質・能力を習得することを目標とする。</p> <p>本演習を受講することで、本学のディプロマポリシーでも示されている(介護福祉士としての)専門知識・技術を修得し、課題解決を図ることができるようになることもねらいとしたい。</p>							④⑤⑦ ⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> 関連する知識や技術を用いて、利用者の課題や介護計画の根拠を計画書にて説明できる。 介護実習における積極的な姿勢について説明できる。 			<ul style="list-style-type: none"> 介護実習評価 巡回指導 	50% 10%		
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 介護福祉士として成長するための技能について指摘できる。 			<ul style="list-style-type: none"> 介護実習評価 巡回指導 	10%		
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> 利用者個別の介護計画立案、実施後の評価を表現できる。 			<ul style="list-style-type: none"> 介護実習評価 巡回指導 	15%		
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> 利用者に合った生活支援技術を習得し、チームの一員としてより良い介護の遂行を協調しながらできる。 			<ul style="list-style-type: none"> 介護実習評価 巡回指導 	15%		
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> 本学成績評価基準に準じ、成績評価基準はS：全ての項目において優れている、A：ほぼ全ての項目において優れている、B：全ての項目において望ましい水準に達している、C：一部の項目においては望ましい水準に達していない、Dほとんどの項目において望ましい水準に達していないである。 実習指導者による介護実習評価項目は、専門職としての技能・知識を評価する項目として「施設理解」・「介護技術」・「コミュニケーション」・「観察・記録」・「ニーズの理解」が、援助者としての態度を評価する項目として「実習態度」・「チームワーク」・「礼節」が設けられている。尚、それぞれの項目への所見が設けられており、総合的な指導者所見も設けられている。所見も評価の参考とする。 介護実習評価表の評価を主とするが、巡回指導時の学生の様子や実習指導者、実習指導者以外の施設職員からも実習への取り組み状況をうかがい、実習指導者と介護実習Ⅲの教員とで協議し最終評価は出すものとする。 施設より返却された実習評価(特にコメント)や教員所感を実習終了後に学生にフィードバックし、最終実習の振り返りに役立てる。 							
授業の概要							
<p>高齢者施設等(実習施設・事業Ⅱ)において行う。この実習においては、一人の利用者を受け持ち、人間関係を築きながら、介護ニーズにあった計画、実践、評価として介護過程を展開していく。介護過程にかかりきりになるのではなく、施設運営のプログラムにも参加し、生活支援技術の実践、個別性を重視した技術の応用を行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：介護福祉士養成講座編集委員会(2019)最新介護福祉士養成講座10『介護総合演習・介護実習』 中央法規出版株式会社</p> <p>参考書：長崎国際大学介護実習要綱</p>							

指定図書：介護福祉士養成講座編集委員会（2019）最新介護福祉士養成講座 10『介護総合演習・介護実習』 中央法規出版株式会社			
授業外における学修及び学生に期待すること			
自分の能力を発揮し、意欲的な取り組みを期待します。知識や技術を修得する機会とし、自主的に学修して下さい。そして、利用者の理解の前提には自己覚知が必要です。介護福祉士としての自分のあり方を、確認して行って下さい。尚、本実習は介護福祉士養成課程での学びの集大成であり、講義・演習、介護実習Ⅰ・Ⅱでの実践事項が事前学習にも役立ちます。授業で使用したテキストや資料の確認、実習記録の確認などを行い授業に臨むことを期待します。			
回	テーマ	授業の内容	予習・復習
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者施設等（実習施設・事業Ⅱ）において実習を行う。この実習は介護の集大成となるものである。 ・ 介護実習Ⅲは4年次の5～6月を予定している。実習は月・火・木・金曜日の週4日間、水曜日は帰校日とする。 ・ この実習においては、夜勤実習（もしくは夜間帯の状況が理解できる形態の実習）を1回は経験する。 ・ 担当利用者を決め、介護過程の展開をしていくものである。従来の実習内容を踏襲するだけでなく、より充実させ発展させていく必要がある。 			
1 週 目	介護過程の実践的展開 ・ 情報収集 ・ 受持ち利用者決定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設内の全般的な把握（物品の位置、週間スケジュール、利用者状況等）を行う。 ・ 施設の動きに合わせ、介護や対処等を学び、利用者とのコミュニケーションを図り、大まかに情報収集し、実習指導者と相談し担当利用者を決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当利用者候補者検討 ・ 週末までに、実習指導者へ候補となる利用者が受け持ち利用者となるよう相談・確認する。
2 週 目	介護過程の実践的展開 多職種協働の実践 ・ アセスメント （情報収集・分析）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者との面接を行う（自己紹介をし、担当させてもらう旨を話し、了承を得る）。尚、面接の可否は実習指導者に確認する（面接を行わない場合もある）。 ・ 生活の動きの中で、日々の支援の中で、利用者の観察等も行いながら情報収集する。情報収集については、利用者との直接的な関わりやカルテ、介護職員、多職種職員からの情報も参考にする。 ・ アセスメント表に沿った情報を整理し、分析し、ニーズ把握のために足りない情報等を収集する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単なる情報収集でなく、ニーズや計画を意識して、実施する。 ・ 受け持ち利用者の記録を毎日書いておく（日々の行動記録）。 ・ アセスメント表を介護実習教員と確認し、実習指導者に提出する。
3 週 目	介護過程の実践的展開 多職種協働の実践 ・ アセスメント ・ ニーズの把握 ・ 介護計画立案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報を分析し、根拠を明確にししながら、ニーズ把握を行う。 ・ ニーズに基づき介護計画（実施計画）を立案してみる（実現可能で具体的なもの）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実現可能な項目に絞る。 ・ アセスメント表の確認を介護実習Ⅲの教員と確認し、実習指導者に提出する。
4 週 目	介護過程の実践的展開 多職種協働の実践 地域における生活支援の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護計画を作成（施設の計画との整合性等も含め、実習担当者に相談し計画を仕上げる）を行い、提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護過程記録を提出できるよう仕上げる。
5 週 目	介護過程の実践的展開 多職種協働の実践 地域における生活支援の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護過程の流れにそって、計画を実施（実践）する。 ・ 目標達成に向かっていくかを随時確認する（その都度評していき、必要があれば、再アセスメント、計画修正を行う）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護実習Ⅲの教員及び実習指導者から適宜指導を受ける。
6 週 目	介護過程の実践的展開 多職種協働の実践 地域における生活支援の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画の妥当性を確認する（目標達成の可能性、計画継続、再アセスメント）。 ・ 計画の修正の必要性の有無を確認する（評価）。 ・ アセスメント表にある評価について記入し、施設に提出する（実習終了後も継続できるよう配慮する）。 ・ 介護過程の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画の妥当性について、教員及び実習指導者と検討を行う。 ・ 報告書作成に向け、不足情報等を確認しておく。 ・ 介護のまとめ作成する。 ・ 反省会を開催する。
【その他】			
<p>① チームの一員として、役割を遂行できるように努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡や報告を確実に行う。 ・ 実習記録とともに、担当利用者についてもケース記録をとる。 ・ アセスメントや計画の立案等に関しては、帰校日を活用すること。 ・ 介護総合演習Ⅲや介護過程Ⅲとも連携して行う。 			